

授業科目 家族看護学

【担当教員名】 松井 由美子、塚本 康子、西川 薫、 手島 美子、袖山 悦子		対象学年 2	対象学科 看護
		開講時期 後期	必修選択 必修
		単位数 1	時間数 15
【ディプロマポリシーとの関連性】			
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度
◎	◎	◎	○
【概要・一般目標：G10】 本科目では、家族看護学の主な理論を理解し、家族アセスメントの方法を学ぶ。事例を用いて、家族の問題を明確化する過程を理解し、家族を支援する看護師の役割を知る。各発達に応じた家族援助のあり方も考察する。			
【行動目標：SBO】 1. 現代社会の家族の状況や家族看護学の経緯について理解し、家族看護学に興味をもてる。 2. 家族看護学に活用されている諸理論について説明できる。 3. 家族の機能・役割について説明できる。 4. 家族アセスメント・モデルの概要について説明できる。 5. 家族アセスメント・モデルを使用し事例の家族をアセスメントできる。 6. 発達段階に応じた家族援助の方法を考察する。			
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	現代社会における家族の現状と家族看護学	1、3	講義、担当：松井 由美子
2	家族看護学に活用されている諸理論、家族アセスメントの方法	2～5	講義・演習、担当：松井 由美子
3	母性看護学領域の家族援助	5、6	講義、担当：塚本 康子
4	小児看護学領域の家族援助	5、6	講義、担当：松井 由美子
5	精神看護学領域の家族援助	5、6	講義、担当：西川 薫
6	成人看護学領域の家族援助	5、6	講義、担当：手島 美子
7	老年看護学領域の家族援助	5、6	講義、担当：袖山 悦子
8	まとめ	1～6	演習・講義、担当：松井 由美子
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	家族看護学	小島操子監修、星直子編集	中央法規 2007・2,600円＋税
参考書	家族看護学第4版 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子著	日本看護協会出版会 2012・3,200円＋税
その他の資料			
【評価方法】 筆記試験(80%程度) レポート(20%程度)	【履修上の留意点】		